

第3章 本市の小・中学校の現状

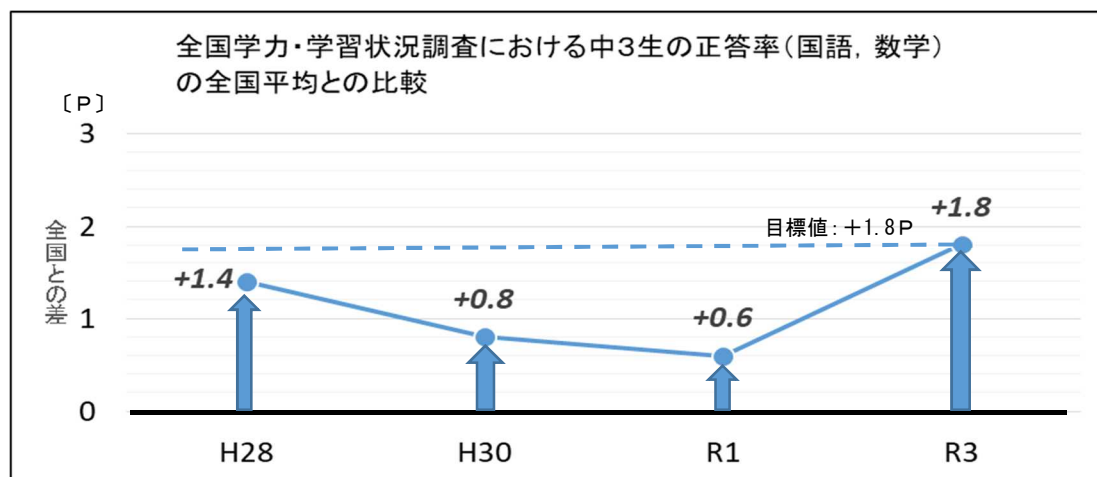
1 「第2次宇都宮市学校教育推進計画前期計画」の評価

本市の学校教育の現状を明らかにするため、平成29年度に策定した「第2次宇都宮市学校教育推進計画前期計画」の指標に基づいて、策定前の平成28年度と現在のデータの比較により、計画の評価を行いました。（詳細なデータについては、「資料編」を参照ください。）

前期計画の主な指標に基づく評価

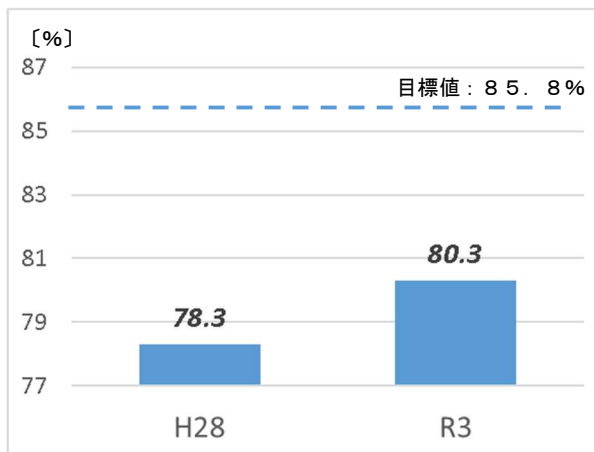
基本目標1 成長し続けるための基盤を培う

- ① 全国学力・学習状況調査における中3生徒の正答率（国語，数学）の全国平均との比較においては、全国平均を上回る状況にあり、児童生徒の学力が定着している状況が見られています。

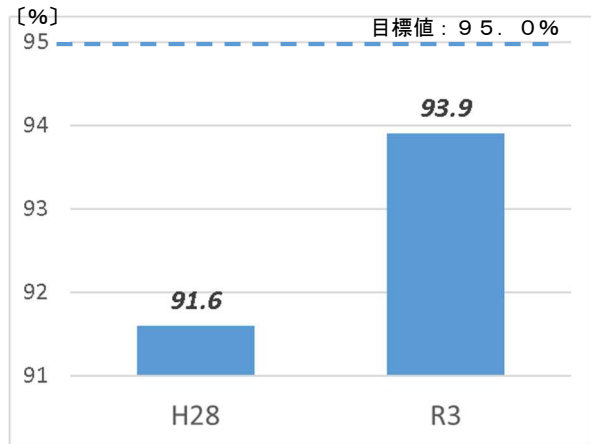


※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

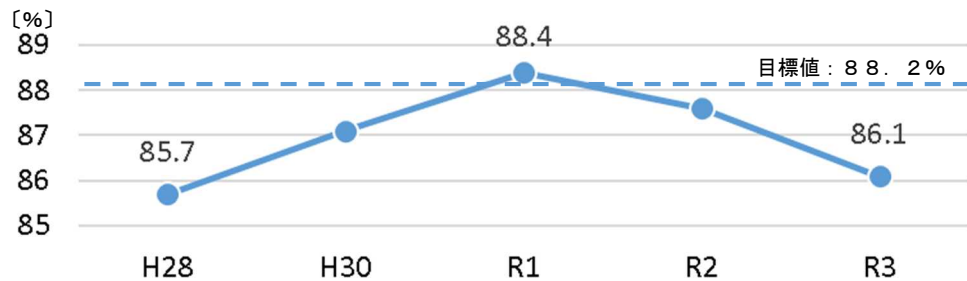
- ② 「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」に肯定的回答をした中3生徒の割合は着実に増加しており、生徒は自ら進んで学習に取り組んでいると考えられます。



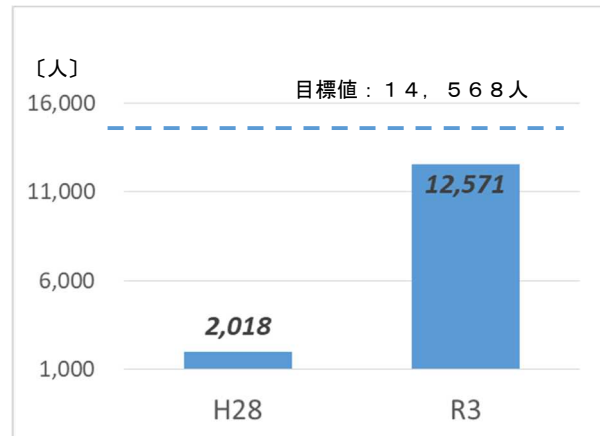
- ③ 「誰に対しても思いやりの心をもって接している」に肯定的回答をした中3生徒の割合は着実に増加しており、生徒は思いやりの心をもって生活していると考えられます。



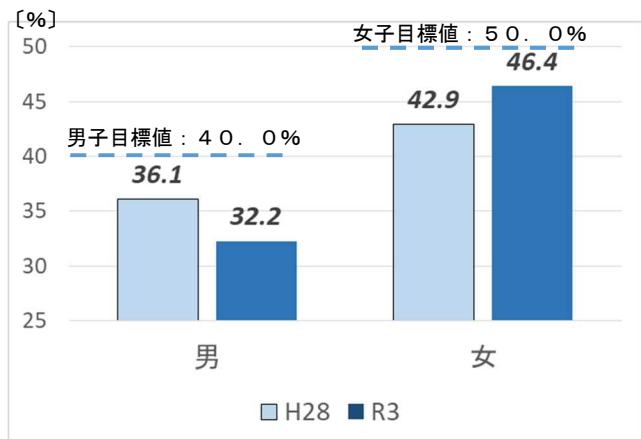
- ④ 「自分やみんなのためになることは、つらいことでもがまんしてやろうとしている」に肯定的回答をした中3生徒の割合は、令和元年度をピークに減少しており、生徒は困難を乗り越えるために粘り強く取り組むことが難しくなっていると考えられます。



- ⑤ 全小・中学校からの教育長奨励賞の申請人数（延べ人数）は着実に増加しており、各学校において、認め励ます教育が積極的に推進されている状況が見られます。



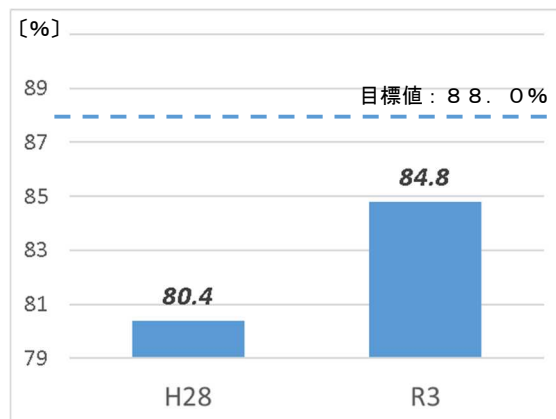
- ⑥ 新体力テストの総合評価における中3生徒の「(A+B) - (D+E)」率は、女子は増加傾向にあるものの、男子は減少傾向にあるなど、児童生徒の体力向上に向けた取組が必要であると考えられます。



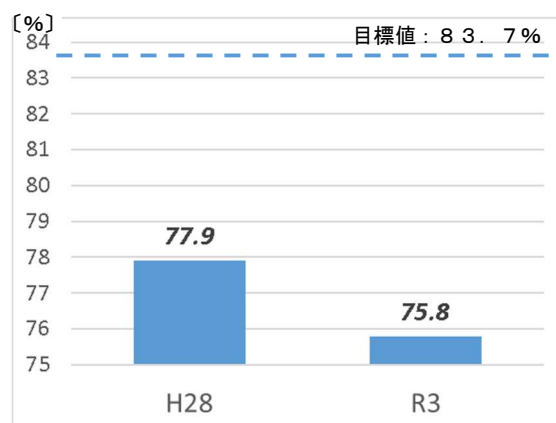
※「(A+B) - (D+E)」率 … 新体力テストの総合評価は、A段階からE段階までとなっている。その総合評価について、上位の結果(A+B)となった生徒の割合から、下位の結果(D+E)となった生徒の割合を引いたもの。

第3章 本市の小・中学校の現状

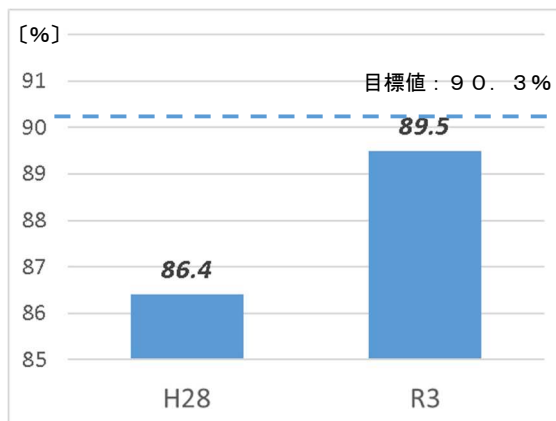
⑦ 「好き嫌いしないで食べている」に肯定的回答をした中3生徒の割合は着実に増加しており、生徒は好き嫌いなく食事をしていると考えられます。



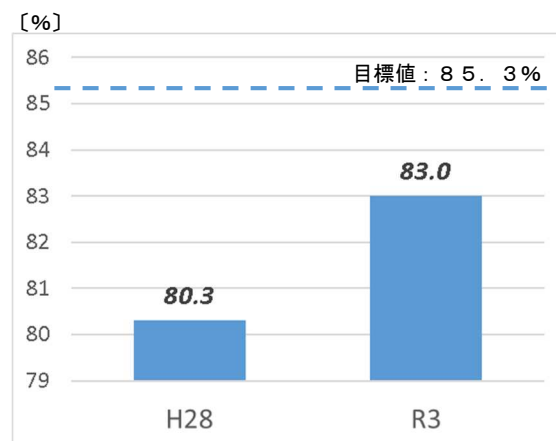
⑧ 「将来の夢や目標をもっている」に肯定的回答をした中3生徒の割合はやや減少しており、生徒が将来に対する夢や目標をもつことが難しくなっていると考えられます。



⑨ 「自分のよさを人のために生かしたいと思う」に肯定的回答をした中3生徒の割合は着実に増加しており、生徒は自分のよさを人のために生かそうとしていると考えられます。

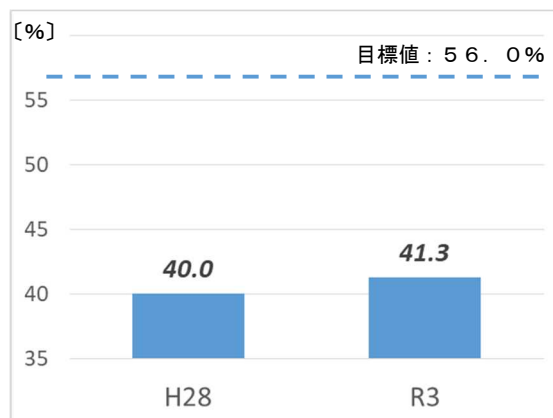


⑩ 「グループなどの話合いに自分から進んで参加している」に肯定的回答をした中3生徒の割合は着実に増加しており、生徒はグループなどの話合いに自分から進んで参加していると考えられます。

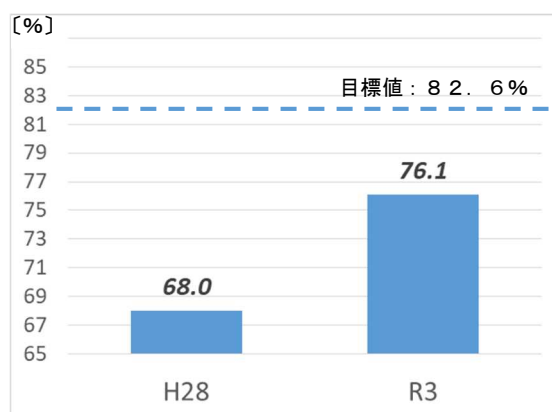


基本目標2 未来を生き抜く力を養う

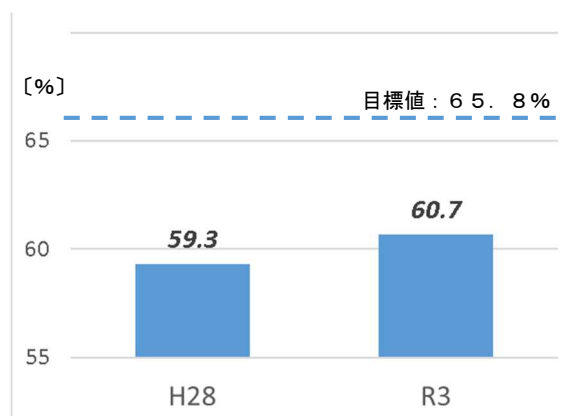
① 英検3級程度の英語力を有する中3生徒の割合はほぼ横ばい傾向となっており、英語力の向上に向けた取組に課題が見られます。



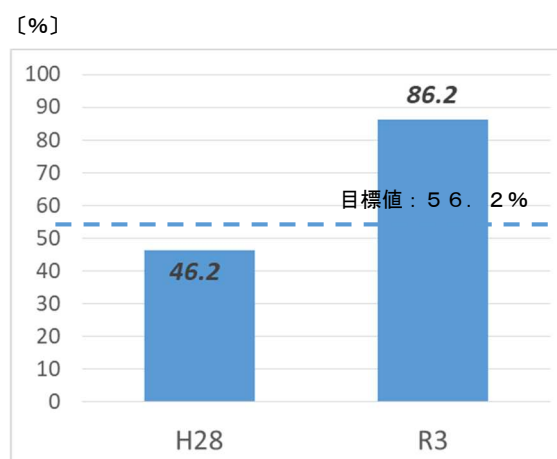
② 授業の半分以上を英語で行っている中学校教員の割合は着実に増加しており、生徒が英語を使ってコミュニケーションを行う機会が増加しています。



③ 「宇都宮市の『よさ』を紹介できる」に肯定的回答をした中3生徒の割合は着実に増加しており、郷土愛の醸成が図られていると考えられます。

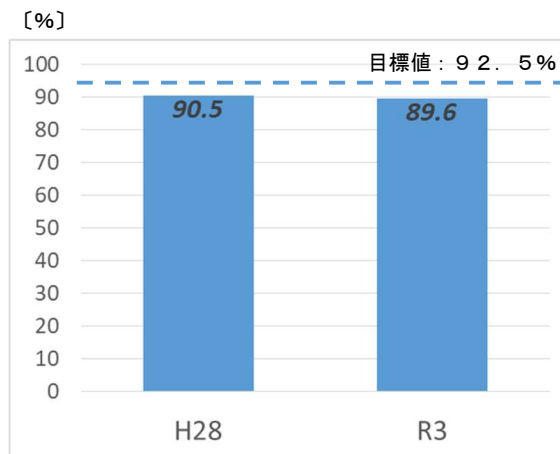


④ 「調べたことをコンピュータを使ってまとめることができる」に肯定的回答をした中3生徒の割合は目標値を大きく上回っており、デジタル機器の活用が進んだことにより、生徒の情報活用能力の育成が図られていると考えられます。

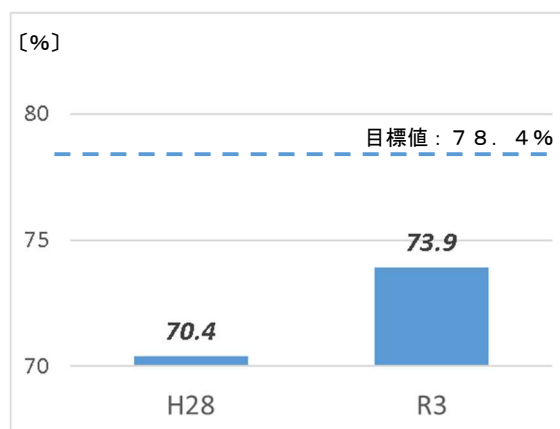


第3章 本市の小・中学校の現状

⑤ 「お年寄りに感謝の気持ちをもっている」に肯定的回答をした中3生徒の割合はほぼ横ばい傾向ですが、およそ9割の生徒が肯定的回答をしていることから、生徒は高齢者に対して感謝の気持ちをもっていると考えられます。

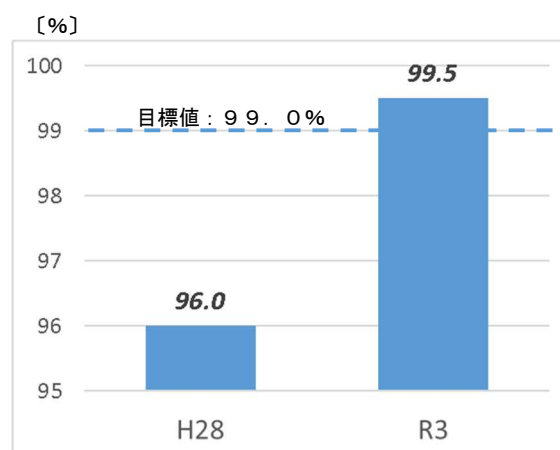


⑥ 「社会で問題になっていることについて、どうすればよいかを考えたことがある」に肯定的回答をした中3生徒の割合は着実に増加しており、社会で問題になっていることに気付き、解決に向けて関わろうとする生徒が増えていると考えられます。

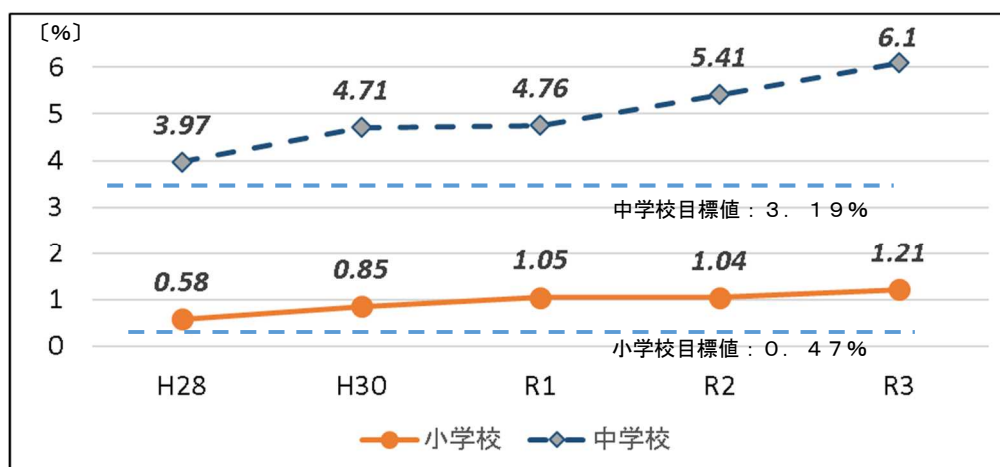


基本目標3 多様な児童生徒の状況に応じた指導・支援を行う

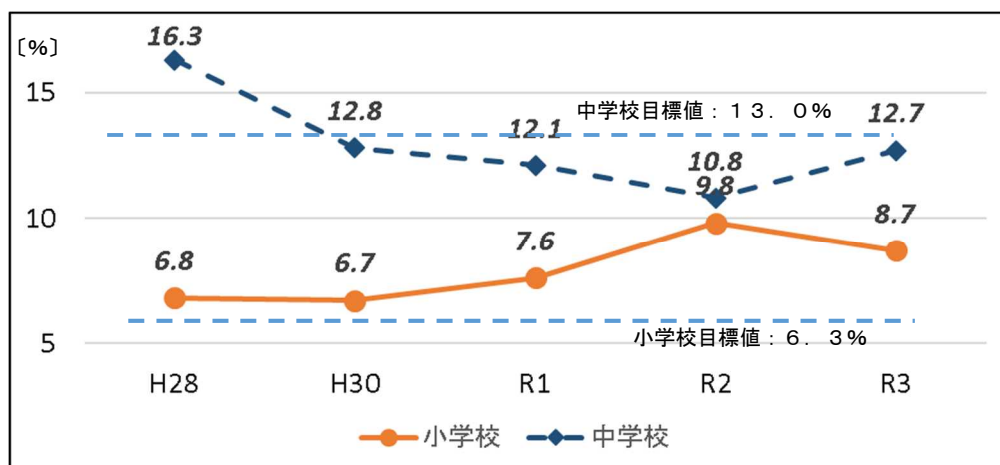
① 一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた指導を実践している教職員の割合は目標値を達成しており、教職員は児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、実態に応じた指導を実践しています。



② 不登校により年間30日以上欠席した児童生徒の割合は増加傾向にあり、不登校児童生徒の個々の状況に応じた指導・支援の充実が必要な状況です。



③ いじめの認知件数（1,000人あたり）は、中学校では減少傾向にあり目標値を達成していますが、小学校では増加傾向にあり、目標達成には至っていない状況です。

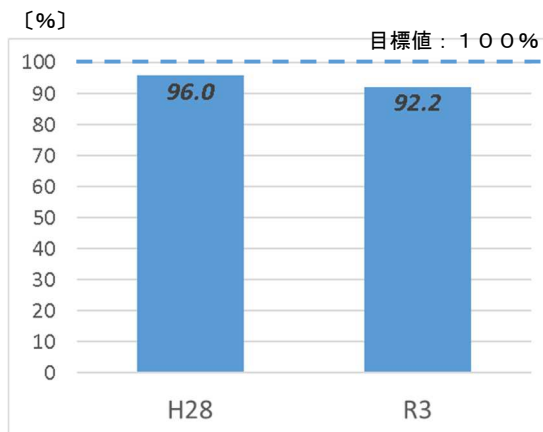


第3章 本市の小・中学校の現状

- ④ 中学校でのいじめの解消率は、ほぼ横ばい傾向ですが、9割以上のいじめが解消されていることから、いじめに対して適切な対応ができている状況です。

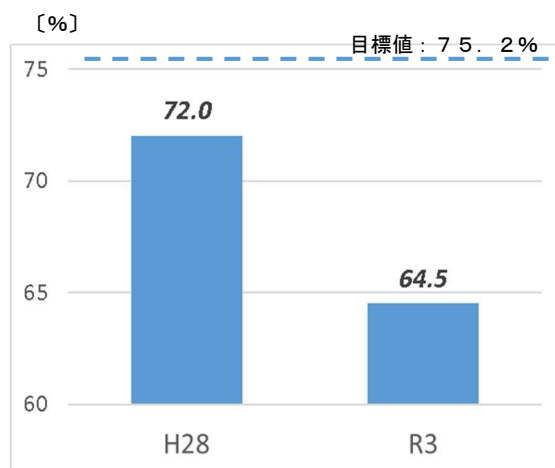
※「いじめ解消率」… いじめが「解消している」状態とは、少なくとも次の二つの要件が満たされている必要があります。

- ① いじめに係る行為が止んでいること（少なくとも3か月を目安として相当の期間止んでいる状態が継続していること）
- ② 被害者児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと

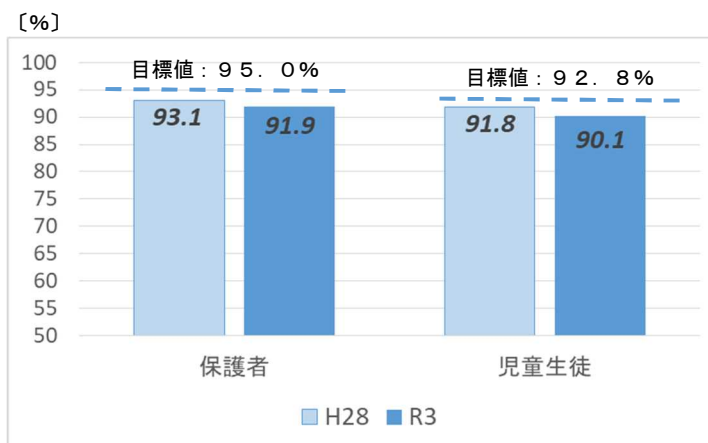


- ⑤ 日本語指導において、初期指導段階の児童生徒のうち、1年以上の日本語指導を受け、初期指導段階から上昇した児童生徒の割合は、目標達成には至っていない状況です。

※ 対象者が少ない等の影響により、経年比較が難しいことから、指標の設定を見直す必要があります。

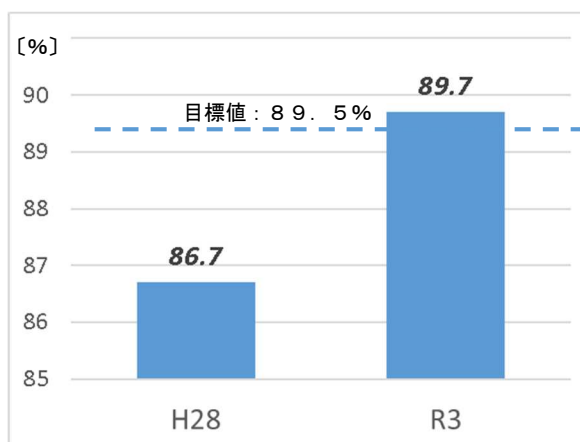


- ⑥ 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である」に肯定的回答をした保護者、児童生徒の割合は、ほぼ横ばい傾向ですが、およそ9割の生徒が肯定的回答をしていることから、生徒は安心して学校生活を送っていると考えられます。

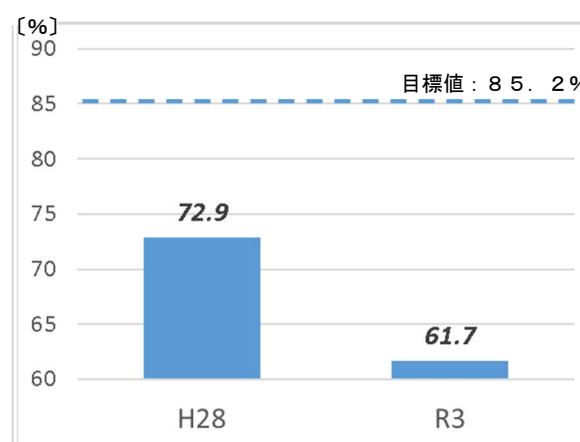


基本目標4 信頼される教職員を育て、学校のチーム力を高める

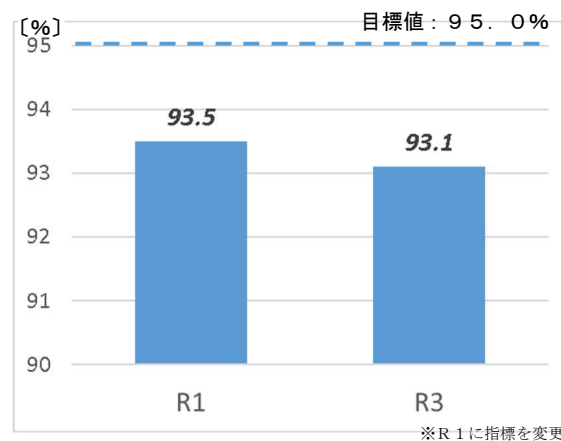
① 「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」に肯定的回答をした児童生徒、保護者の割合は目標値を達成しており、約90%に達しています。教職員が分かる授業やきめ細かな指導を行っていると考えられます。



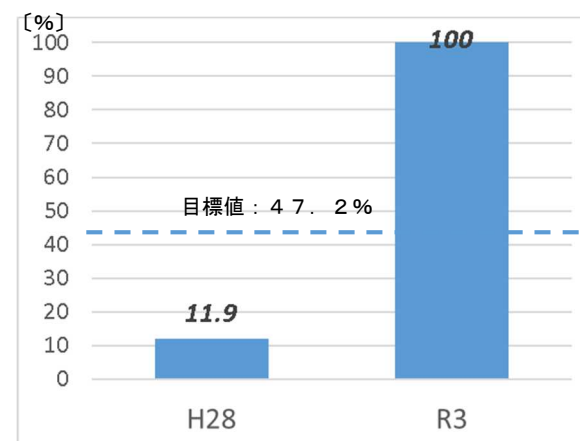
② 研究授業を年間4回以上実施した小・中学校の割合は減少傾向にあり、目標達成には至っていない状況です。



③ 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」に肯定的回答をした教職員の割合は若干減少しており、目標達成には至っていない状況です。



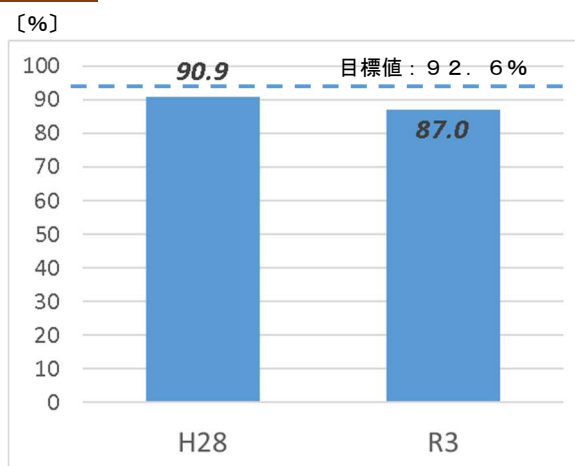
④ 学校における働き方改革の一助となる学校リフレッシュデーを月1回以上設定している学校の割合は目標値を大きく上回り、全ての小・中学校が設定しています。



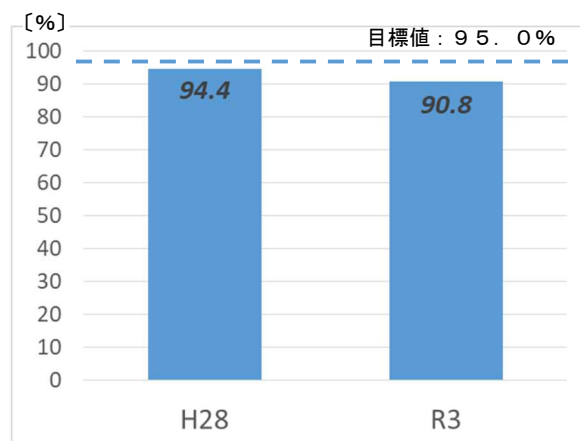
第3章 本市の小・中学校の現状

基本目標5 地域とともにある学校づくりを進める

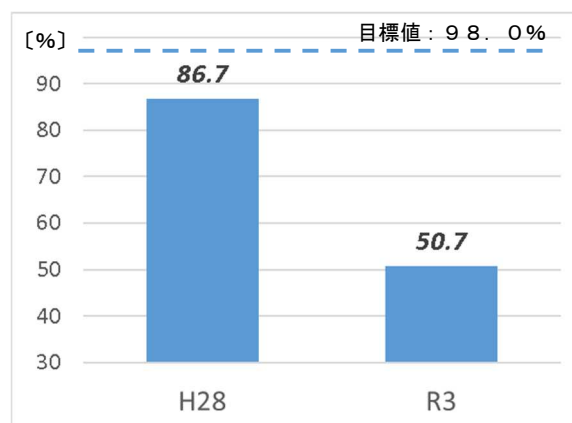
- ① 「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」に肯定的回答をした保護者、地域住民の割合がおよそ9割であることから、「小中一貫教育・地域学校園」の取組が適切に行われていると考えられます。



- ② 「学校は、家庭・地域・企業等と連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている」に肯定的回答をした保護者、地域住民の割合がおよそ9割であることから、家庭・地域・企業等と連携した教育活動や学校運営が行われていると考えられます。

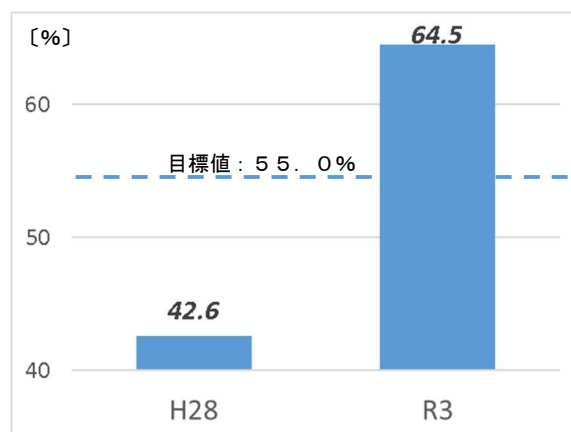


- ③ 児童と園児の交流と教職員間の相互理解の活動等を実施している学校の割合は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて大きく減少するなど、小学校と幼児教育施設の教職員同士の相互理解やカリキュラムの接続に向けた取組に課題が見られます。

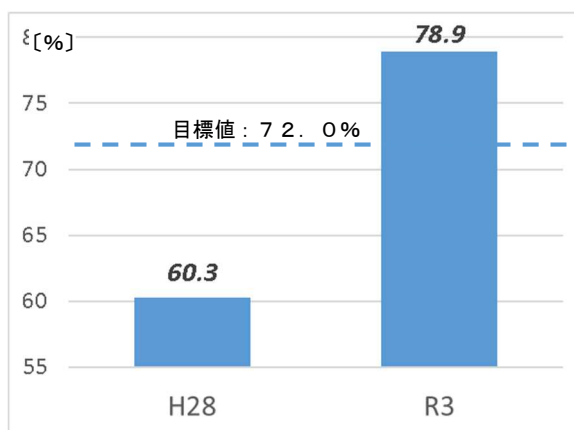


基本目標6 新しい時代にふさわしい教育環境を整える

① 学校のトイレの洋式化率は大きく増加し、目標値を達成しています。快適な学校施設の整備が推進されています。



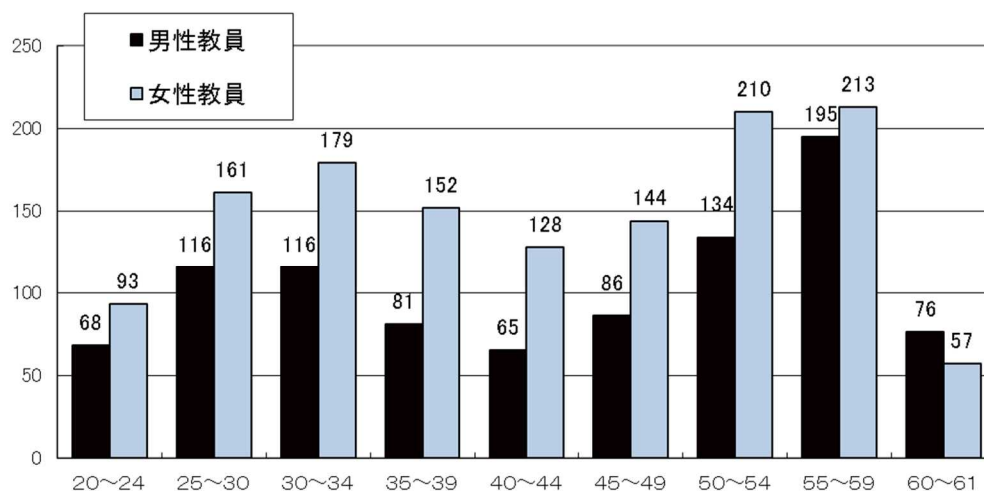
② 「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている」に肯定的回答をした中3生徒の割合は大きく増加し、目標値を達成しています。学校のデジタル化が推進されていると考えられます。



<参考>教職員の年齢構成

現在勤務する教職員において最も割合が高い年齢層は55～59歳であり、令和2年度～6年度に退職のピークを迎える状況となっています。

本市教職員の年齢構成（令和3年5月現在）



2 「小中一貫教育・地域学校園」制度の評価

本市学校教育の基盤となる仕組みである「小中一貫教育・地域学校園」制度について、平成24年度の全市実施からこれまでの成果等を明らかにした上で、「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」の基盤となる制度として関係を整理するため、令和3年度に制度の検証・見直しを実施しました。以下は、制度の検証において、指標の状況や各地域学校園からの意見を基に、各取組の状況を評価した結果の概要です。

各取組の状況

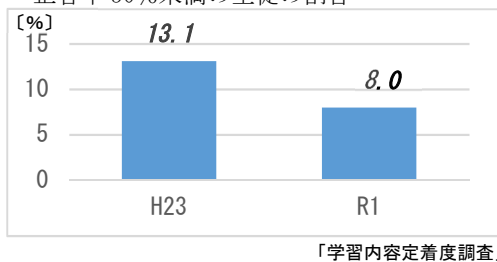
制度における取組は各地域学校園において着実に実施され、小・中学校の連携による義務教育9年間を通じた系統的な指導や、地域の教育資源を活用した特色ある教育活動によって、次のような成果が見られました。なお、以下は検証実施時の制度における基本方針に基づく視点でまとめています。

学力保障について

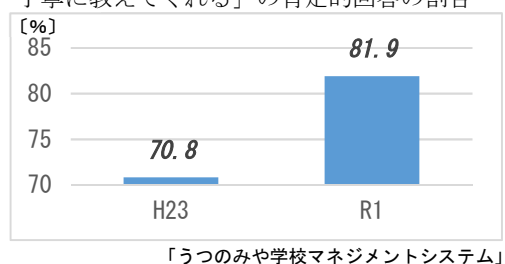
小・中学校が連携して学力向上を目指す取組が定着し、義務教育修了段階の生徒の状況に指導の成果が顕著に表れています。また、教科等横断的教育活動（「宮・未来キャリア教育」「宮っ子心の教育」「元気アップ教育」）において、4・3・2制を生かした指導が推進されました。

〔中3生徒の各種調査結果〕

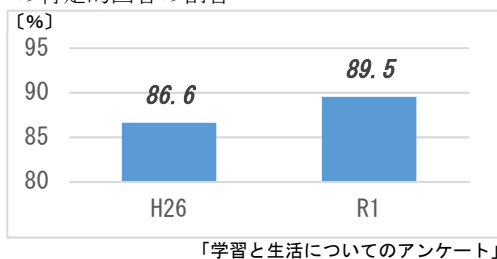
「学習内容定着度調査」（数学）における正答率50%未満の生徒の割合



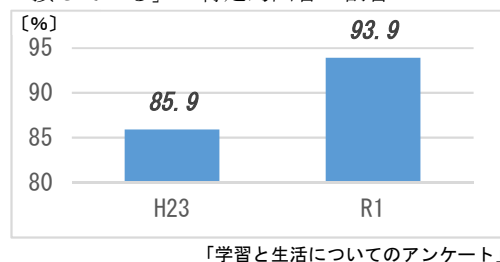
「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」の肯定的回答の割合



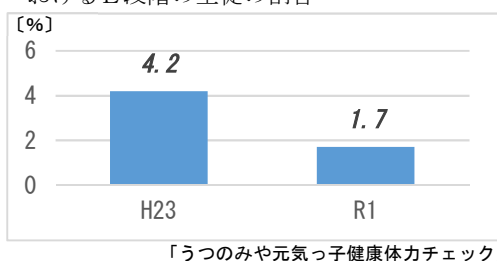
「自分のよさを人のために生かしたいと思う」の肯定的回答の割合



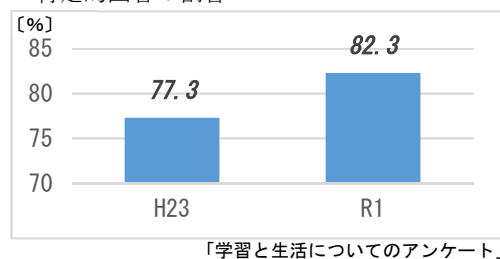
「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」の肯定的回答の割合



「うつのみや元気っ子健康体力チェック」におけるE段階の生徒の割合



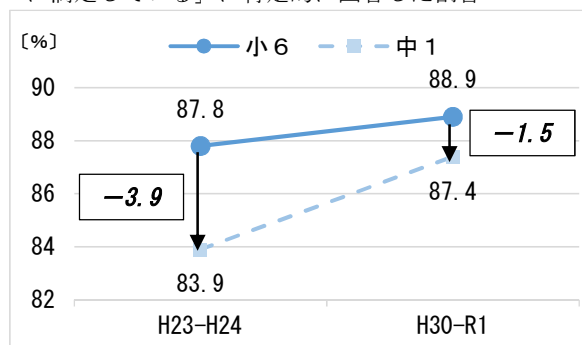
「好ききらいをしないで食べている」の肯定的回答の割合



学校生活適応について

生活のきまりに関する小・中学校が連携した指導などにより、中1生徒の中学校生活への適応が図られたとともに、小・中学生の交流などによって小学校児童の中学校生活への不安軽減が図られ、中1ギャップの解消に一定の成果が見られました。また、不登校の状況にある児童生徒への支援や、いじめ防止対策を含む児童生徒指導についての情報共有などが行われ、小・中学校が連携した対応の充実が図られました。

同一児童生徒における小6時と中1時に「学校生活に満足している」に肯定的に回答した割合

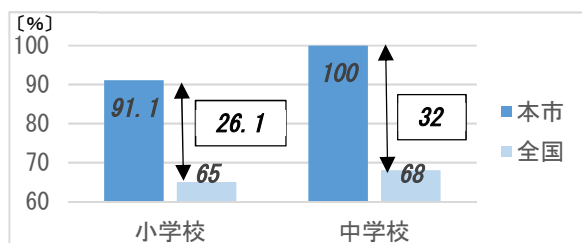


「学習と生活についてのアンケート」

教職員の相互理解について

乗り入れ授業により、学習指導や児童生徒の状況に係る相互理解が図られました。また、「小中一貫の日」に実施した会議などにおいて情報交換が計画的に実施されました。

「近隣等の小学校（中学校）と、教科の接続や教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った」（R1）に肯定的に回答した学校の割合

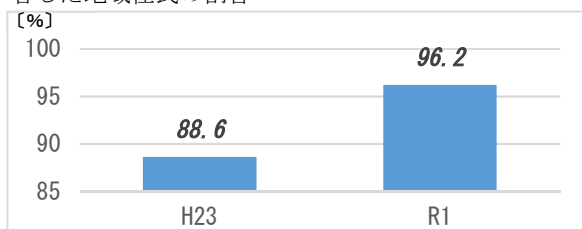


「全国学力・学習状況調査」(学校質問紙)

地域の教育力の活用等について

各学校において、地域の教育力を生かした教育活動が推進されました。また、小・中学生の地域行事への参加により、社会性や地域への愛着などが育まれました。

「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」に肯定的に回答した地域住民の割合



「うつのみや学校マネジメントシステム」

参考：制度におけるこれまでの取組

- 「9年間の系統性を生かしたカリキュラムの実施」
- 「小学校高学年の教科担任制」
- 「小学校6年生の進学先中学校訪問」
- 「小・中学生の交流活動」
- 「『小中一貫の日』の設定」
- 「地域学校園教職員研修」
- 「中学校教員の小学校への乗り入れ授業」
- 「小学校教員の中学校への乗り入れ授業」
- 「地域の教育力を生かした教育活動」
- 「魅力ある学校づくり地域協議会の連携」
- 「小中一貫教育推進主任の設置」

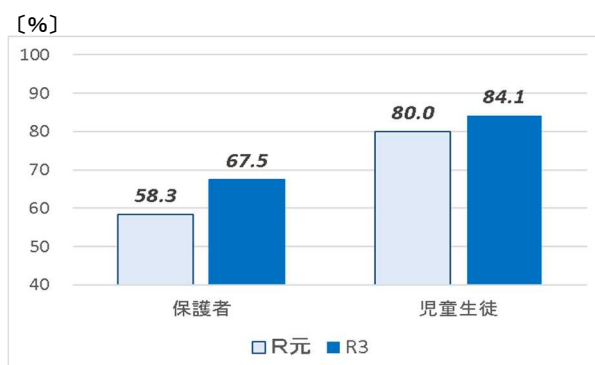
一方、取組の状況や国・県の教育施策の動向を踏まえ、各教科等における4・3・2制による指導計画の効果的な活用、不登校数の増加を踏まえた取組の充実、小・中学校教職員が参加する授業研究の更なる推進、幼児教育施設と小学校の連携における本制度の枠組みの活用などが現在の課題であり、検討の必要性があることが明らかになりました。

検証結果を踏まえた制度の見直しについては、本冊子「第7章 計画の推進にあたって」のP.95～100において示しています。

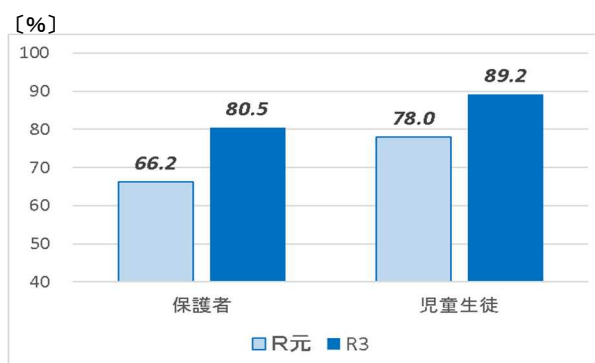
3 学校マネジメントシステム アンケート調査から

学校の現状や児童生徒の実態を把握し、各学校におけるP D C Aサイクルを円滑に実施するために行う、「学校マネジメントシステム」のアンケート調査において、令和元年度と令和3年度の結果を比較すると、「第2次宇都宮市学校教育推進計画前期計画」における施策・事業の成果が顕著に表れているものがあります。

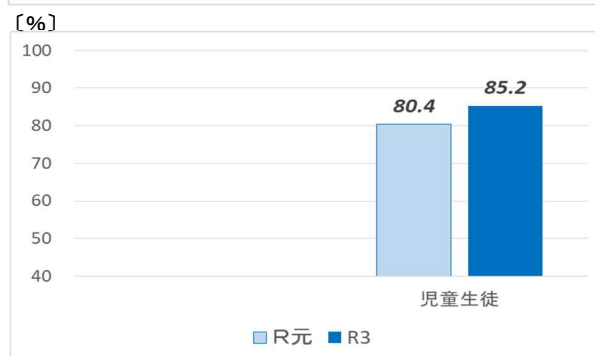
- ① 「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている」に肯定的回答をした児童生徒、保護者の割合（％）



- ② 「児童生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している」に肯定的回答をした児童生徒、保護者の割合（％）



- ③ 「児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている」に肯定的回答をした児童生徒の割合（％）



- ④ 「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている」に肯定的回答をした児童生徒、保護者の割合（％）

